



魔海戦記
田中文雄
角川書店 (新書)
(8/25刊・¥640)

小さな田舎村ミトラで、十二人の子供達が惨殺される。不思議なことに、ただひとりサムソンの息子ノバだけが、魔王エクザイルの僧兵に、連れ去られる。止める村人を振り切り、サムソンはダゴンの戦士として、追跡行に赴くのだ。ダゴンは、忘れられた過去の海神だったが、異界からの侵入者エクザイルの前に甦る。魔王の手先は、次々とサムソンの前に立ちはだかり、行く手を遮る。

『大魔界』シリーズで知られる作者である。本書もまた、ヒロイック・ファンタジイだ。古代南欧風の舞台設定に、邪悪な魔王と英雄との戦いが描かれる。日本では、珍しいタイプの小説だろう。大人向けの作品が、そもそも少ない。実感が件なわれない分、まだ、受け入れられないのだろう。けれど、現実から一見遠いように見えて、大半のファンタジイは、現実のすりかえに過ぎない。とれだけの異質さ、あるいは距離感(舞台と人間)を表現できるときに、かかってくる。その点、本書の主人公は、現実の裏返しとは違う。ただ、その強さはともかく、復讐心がピンとこないのが難点。なぜこれほどまでに、執念が持続するのだろうか。